

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	高山市	学校名	高山市立久々野小学校			
校長名	丹羽雅彦	対象学年	5	人数	32名	
活動名	リンゴの栽培体験等	時間数	35時間	継続年数	20年以上	
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） 5 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 6 その他（ ）			[○]
複数年継続するための工夫改善	今後は、久々野の発展を願い、自分たちから考え動き出していく活動へとつなげていきたい。具体的には、リンゴを材料とした加工食品を調べたり加工食品づくり体験をしたり、マスコットキャラクターを考えたりして発信していくことである。さらに、新たな特産品の開発なども考えている。					
<p>1 ねらい 久々野の特産品である「リンゴの栽培体験活動」を通して、なぜ、リンゴが特産品なのかを調べ、地域の特性と良さを学ぶ。</p> <p>2 活動の概要 特産品であるリンゴの栽培を地元の果樹園に協力依頼し、リンゴがなぜ特産品になっているのかを学ぶ。また、摘花、摘果、葉摘み収穫の体験などを通して、リンゴ栽培について学ぶ。 果樹園の方に来ていただき、リンゴ栽培をしていく中での苦労や喜び、その仕事にける思いなどを聞き、今後の活動の意欲や見通しを持つ。さらに、リンゴを材料とした加工食品を調べ、加工食品づくりを体験し、リンゴのマスコットキャラクターを考える中で、地域の良さや特性を学ぶ。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子 リンゴの加工食品づくりで体験したことを、保護者や地域へ通信等で発信する。地元の果樹園や渚の道の駅に通信を置いてもらい地域の人だけでなく、久々野のリンゴづくりについてや、リンゴの加工品について、幅広く知ってもらう。 また、リンゴのマスコットキャラクターの完成版も、地元の果樹園だけでなく、渚の道の駅にも展示してもらえらることも考えている。</p> <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等） 久々野でリンゴ栽培が盛んになってきたことと特産品として認められるよう努力していることから、もっと多くの人に伝えたい、広めたいという思いが強くなってきている。 リンゴづくりにかける地元の果樹園の方の熱い思いから、毎回、学ぶことが多かった。特に、一つのリンゴを作るための手間や作業の様子から、周りの事（普段、何気なく食しているものなど）に対する感謝の気持ちをもつことができた。</p>						

